

Silves

について



シルヴェス セーラ・ドゥ・モンシーク (Serra de Monchique

) の丘の上に位置するシルヴェスの礎と発展は、アラドゥ (Arade) 川によってもたらされたものです。この川は、紀元前 3,000 年前の鉄器時代から人々の定住を促す重要な輸送ルートになっています。アラドゥはまた、ここで銅を採掘し、オリーブオイル、ワイン、ナッツ、塩などの他の製品を取引したローマ人の玄関口でもありました。5

世紀に西ゴート族が到来し、南の領土がムーア人に占領される 8 世紀まで在留しました。シルヴェスの大繁栄はこの時期にさかのぼります。当時は重要な都市であり、商業と文化の中心地であり、タイファ王国の 1 地域の中核都市でした。この都市を通り過ぎていったさまざまな人々の中で、最も深い痕跡を残したのはイスラム教徒であり、現在の区割りが定まったのはこの時からでした。ガルブ・アル・アンダルス (南西部の半島アル・アンダルス、今日のアルガルヴェに与えられた名前) が文化的および政治的ハブとして得た大きな注目度を考慮して、さまざまな作家、詩人、地理学者が、イスラム・ゼルプのことを西のバグダッド」として知られるガルブにある最も重要なイスラム教徒の都市として言及しています。1189 年、ポルトガル王サンチョ 1

世率いるキリスト教徒による猛攻撃が失敗した後、1242

年、サンティアゴ騎士団のマスターであるパイオ・ペレス・コレイアの軍隊の助けを借りて、シルヴェスはポルトガル王アフォンソ 3 世によって完全に征服されました。シルヴェスは司教区の所在地となり、古いモスクの廃墟の上に大聖堂を建設し、アルガルヴェ全体の首都になります。シルヴェスは、その経済的重要性を維持しながら、15 世紀になるとエンリケ航海王子の主導により、人々がポルトガルの国境を越えた海上航海に積極的に参加するのを目の当たりにしました。この地域の衰退は、川の沈泥堆積による航行の障害と 16 世紀半ばの司教区ファロへの移転によって始まりました。町は 1755 年の地震で壊滅的に損傷してから、19 世紀の産業革命、特にコルクの開発とナッツの商業化によってようやく町に新たな息吹がもたらされました。この時代の新興ブルジョアジーが保有していた多くの家屋が、シルヴェスの都市景観を特徴付けています。20 世紀に入り、アラドゥダムが建設され、重要な灌漑インフラが整備されたことで、この市は国内で最も重要なオレンジ産地に昇格しました。